



## 交流、そして地域とのつながり

副校長 杉本 英嗣

この4月に中川小学校に赴任しました、副校長の杉本です。朝は昇降口近くで子どもたちの登校の様子を見ていますが、次第にあいさつをする子が増えてきて、朝から気持ちよく過ごすことができています。また、休み時間には中川小学校のことを教えてくれる子もいて、頼もしいなと思っています。

先日入学した一年生も毎日元気に過ごしています。一年生は本当に覚えることがたくさんあります。学習についてもそうですが、学校生活の仕方についてたくさん覚えていきます。その際に、六年生が一年生のフォローをすることが多くなるのですが、このような異学年交流は子どもたちの社会性を育むことを目的としています。昨今、「挨拶ができない」「約束を守れない」「自分勝手な行動が多い」など、子どもの社会性に係る問題を耳にしますが、それらの要因として、人と関わりたいという意欲の低下があるようです。かつて社会性は、近所の子ども同士での遊びや、大人数での家族での関わり、近所の大人との関わりの中で育まれていました。この社会性があったからこそ、大人になった時に社会参加したい、誰かの役にたちたいという意欲に繋がっていきました。このような構造が以前と比較して成り立ちにくいと言われる現代ですが、それをカバーするためにも学校教育での異学年交流には価値があると考えています。

また、中川小学校に来てから、地域の方からの挨拶をよく受けます。その方々は、地域を盛り上げるため、もしくは子どもたちのためにという目的をもっています。話を聞いていても、私自身「いい活動をしているなあ」と思うものが多いのですが、中川小学校のみなさんにもぜひ参加して、いろいろな人と交流し、自分の力につなげてほしいと考えています。

子どもたちは本当に周りの大人たちをよく見ています。ぜひ、地域の行事や催し物に参加して人とつながり、自分の住んでいる地域をより好きになってほしいと思います。それが、将来の地域の発展につながります。

学校でも地域に出て行って話を聞いたり、または学校に講師として来てもらって学習したりする場面が出てきます。そこで、たくさん話を聞き、一緒に活動することで地域との絆を深めてほしいと考えています。



校長先生が朝会で、「まちこたけちゃん」について全児童に話しました。